

第1回 岡山県みんなでつくる図柄ナンバー会議

＜発言要旨＞

日 時 令和7年11月20日（木）
10:00～11:00
場 所 岡山県庁 3階第2会議室

3 議事

（1）会議名称の決定

[事務局説明後の委員発言要旨]

（委員）

- ・ 柔らかい名称で親しみやすい。特に異論はない。

（2）地方版図柄入りナンバープレートの概要

[事務局説明後の委員発言要旨]

（委員）

- ・ 交付手数料について、地域によって金額が異なる理由が知りたい。
- ・ 図柄入りナンバープレートをフルカラーにする場合、1,000円以上の寄付が必要とのことだが、寄付の上限はあるか。
- ・ 導入申込と図柄デザインの制作、完成の時期がずれるとの説明だが、申込の際にデザインそのものでなくても、テーマを決めて提出する必要はないか。

（オブザーバー）

- ・ 交付手数料について、運輸局ごとにナンバープレートを交付しており、さらに運輸支局ごとに交付する代行業者を指定している。地域ごとに事業者が異なり、原価計算した上で金額を算出し国が認可しているため、交付手数料に多少の違いが生じる。
- ・ 寄付金の上限について、設定はない。

（事務局）

- ・ 導入申込の際にテーマが必要かどうかについて、現在、国が導入要綱を検討している最中である。今後、国から方針が示されれば、改めて本会議の場で紹介したい。

（委員）

- ・ 導入申込に際し、市町村の過半数以上の同意が必要とあるが、同意を得るタイミングでは図柄デザインが決まっていない。この場合、市町村として同意できないネガティブ

な要素があるとすれば、どのようなことが考えられるか。

(事務局)

- ・ 現段階では、想定していない。
- ・ 市町村の意見も非常に重要と考えているが、本会議に全市町村が参画するのは現実的でない。このため、テーマやデザインについて、市町村から意見を伺いながら議論を進めたい。
- ・ 本会議に先立ち、市町村に対して図柄入りナンバープレート導入に向けた概要説明を行ったが、ネガティブな反応はなかった。

(委員)

- ・ 今回導入を目指すのは、県全域で利用できるナンバープレートという認識でよいか。県が導入することで、他の地域が導入できないということはないか。

(事務局)

- ・ 今回導入を目指しているのは、都道府県版のナンバープレートであり、岡山、倉敷の両ナンバープレートで利用できる。それとは別に、例えば倉敷ナンバーに別の図柄を導入することも可能である。

(委員)

- ・ 出雲ナンバーのヤマタノオロチのデザインについて、かなり普及率が高い。何か特別なことをしているか。

(オブザーバー)

- ・ デザイン性が高く、単純に非常に人気がある。また、ヤマタノオロチはモノトーン版も人気が高い。普及率は人口（台数）の地域差も関係している。

(委員)

- ・ 図柄入りナンバープレートの地域別の申請数と普及率のランキングは大きく異なっている。人口が多い地域で普及率を高めたり、定着させたりする点で、見るべき指標は、申請数ではなく、普及率ということか。

(オブザーバー)

- ・ 国としては、皆さんに選んでいただきたい気持ちがあり、普及率を指標として使用している。

(3) テーマ・デザインの決定方法

[事務局説明後の委員発言要旨]

(委員)

- ・ テーマを提出する際、市町村の意見を参考にするとあるが、どのようなイメージで続きを行うのか。

(事務局)

- ・ 市町村に対し、県の図柄入りナンバープレートにふさわしいテーマについて、意見を照会する。委員の意見に加え、市町村の意見も本会議の場で議論していただきたい。

(委員)

- ・ 文書で照会するということか。その場合、各市町村からはそれぞれの観光施設や特産物等が提出されないか。

(事務局)

- ・ 前提として、「岡山県」のナンバープレートの導入に向けたテーマを照会する。地域のプレートではなく、県のプレートということで意見を伺いたい。様々な意見が集まるのが想定されるが、そういったものも踏まえ、この場で議論いただきたい。

(委員)

- ・ テーマはどのようなイメージか。観光施設や、例えば「晴れの国」という抽象的なイメージもテーマとなるか。

(委員)

- ・ レベル感も含め、幅広くテーマを出すことでよいか。

(事務局)

- ・ 抽象的なイメージでも問題ない。幅広くテーマを集め、議論いただきたい。

(委員)

- ・ 他県の事例を参考にしたところ、テーマとなるのは大体5つが多く、岡山城や倉敷美観地区のような「全国的に有名なイメージ」、桃太郎のような「地域のキャラクター」、タンチョウやカブトガニのような「地域で愛されている動物」、鬼や雪舟のような「地域で親しまれている題材」、最後に、瀬戸内海や古墳のような「地域で親しまれている風景」、こういったものが大きなテーマになると考える。

(委員)

- ・ フルーツというテーマも考えられる。ふるさと納税の返礼品では、圧倒的にフルーツが多いため、県内外からのイメージも強いのではないか。

(委員)

- ・ 一般的に、テーマを決めてデザインをする際は、どのような層をターゲットにするかも材料の1つとなる。

(委員)

- ・ 軽乗用車に乗っている方と、普通自動車に乗っている方について、目指すナンバープレートの図柄デザインが異なるのではないかと。岡山県では、若干普通自動車に乗っている方の割合が多い。

(委員)

- ・ ターゲティングをある程度行くとすれば、図柄入りナンバープレートを付けている年齢層や男女比率がデータとして取れたら参考にしたい。

(オブザーバー)

- ・ 申込の時点で年齢等の個人情報は整理されていないため、提示できない。

(委員)

- ・ 軽乗用車の黄色いナンバープレートを避けるため、あえて図柄入りナンバープレートを選ぶという話もある。

(委員)

- ・ 図柄入りナンバープレートを選択する方に特有の傾向や特性があるのであれば、そうした方々に訴求できるテーマやデザインが普及率向上には有効だと考えられる。しかし、最終的には県民アンケートを実施するため、結果として幅広い層を意識したイメージになるのではないかと。

(委員)

- ・ 今年5月に開催されたフォーラムを参考にすると、熊本県のデザインの決定方法が特徴的だった。初めからテーマを決めて、プロに依頼する方法で、高い普及率を維持している。しかし、岡山ではブランド力のあるコンテンツはなかなかない。そのため、まずは幅広いイメージでテーマを議論し、デザインに繋げていきたい。

(委員)

- ・ デザインの一般公募について、プロ、アマチュア問わずということだが、プロのデザイナーの方が1つの作品を作る場合、それなりにコストがかかる。一般公募のイメージについて教えてほしい。

(事務局)

- ・ 現時点では、デザイナーの卵がよく閲覧しているコンペサイトに掲載することを想定している。インセンティブをつけられるかどうか、これからの話となるが、条件に納得いただいたうえで、応募いただきたい。

(委員)

- ・ デザインは一度決まると長く使われ、多くの人の目に触れるため、選ばれたデザイナーにとって大きなやりがいがあり、評価にもつながる重要なものだ。過去の傾向として、採用されるのはプロ寄りの人材であることも多いことから、一般公募の方法は丁寧に議論し、慎重に決める必要があると感じている。

(4) 今後のスケジュール

[事務局説明後の委員発言要旨]

(委員)

- ・ 次回の会議はいつ頃開催されるか。

(事務局)

- ・ 図柄テーマの提出時期を検討のうえ、改めて日程調整を行う。早ければ12月中、遅くとも1月までに第2回会議を開催する予定である。